

## 研究会大会報告

## 令和6年度秋の研究会大会報告

Report on the CSAJ Study Groups Meeting 2024

## 令和6年度研究会大会実行委員会

Executive Committee of the CSAJ Study Groups Meeting 2024

令和6年度秋の研究会大会を2024年11月30日(土)・12月1日(日)の2日間にわたり、オンラインにて開催しました。本大会は、日本色彩学会に所属する研究会が主体となり、最新の研究成果を発表・共有するとともに、参加者間の交流を深める貴重な機会となっています。今年度は7研究会が参加し、86名が参加登録しました。規模はやや縮小したものの、内容の充実度は変わらず、有意義な大会となりました。

初日には、合同研究発表会が実施され、色彩科学、視覚認知、デザイン、感性など多岐にわたる分野の研究発表が行われました。また、研究会活動紹介の一環として、旧コスメティクスと肌・顔研究会の閉会説明会が開催され、研究会の歴史と活動の歩みが報告されました。続いてオンライン交流会が開かれ、和やかな雰囲気の中で、研究や活動に関する意見交換が行われました。

2日目には、環境色彩研究会による「見学会報告」が行われ、商店街の色彩環境に関する考察が発表されました。その後、美的感性研究会と色覚研究会の共催による講演会が開催され、「顔の知覚・認知・感性」をテーマに若手研究者4名による最新の研究発表が行われました。各講演では視覚や感性の観点からの多様な研究が紹介され、活発な質疑応答が交わされました。

より詳細な内容につきましては、企画ごとに以下にまとめております。

本大会が円滑に開催され、盛況のうちに終了できましたのは、ご参加いただいた皆様と、運営にご尽力くださった実行委員や事務局の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

(西省吾・令和6年度研究会大会実行委員長)

## 環境色彩研究会

今年度の研究会大会では、見学会報告会を開催しました。今回は、下北沢の商店街を『色彩』で見る(2024年11月4日実施)と浅草の商店街を『色彩』で見る(2024年11月17日(日))の内容を報告しました。

環境色彩研究会以外の方にも聴講していただき、有意義な機会となりました。今後も同様の企画で、活動内容を広い範囲にアピールしていきます。

(萩原京子・環境色彩研究会)

## 美的感性研究会・色覚研究会共催講演会

本講演会は、12月1日(日)13時からほぼ3時間半に渡り、4名の講演者を招いて開催しました。講演会の趣旨は、顔に関する様々な話題、例えば顔の知覚と認知、顔の印象と評価などについて、科学的研究手法によって明らかになった事柄を、4名の若手研究者からご講演して頂く企画にしました。特に博士を取得してから5年以内の若手研究者にスポットを当て、研究を奨励する意味も併せ、講演謝金を出すことができる研究会大会の企画として提案させて頂きました。ただし講演謝金の財源に関しては、理事会で審議をして、財源を確保して頂くなど、ご迷惑をお掛け致しました。企画提案から講演会実現まで紆余曲折もありましたが、無事開催まで辿り着くことができました。ご尽力頂いた先生方に感謝申し上げます。

本講演会が扱った研究対象は、私たちが日常的に見ている「ヒトの顔」だけではありません。例えば、絵の中に描かれた顔、「顔」に見える物、ロボットやCG映像などヒト型エージェントの顔、絵文字の顔なども取り上げました。顔にまつわる興味深い現象と性質を、切り口を替えながら解き明かすことで、「顔」研究の面白さを聴講者の方々にも知って頂きたいと思いました。そこで、色彩学の分野からだけでなく、

全くの異分野からも、2名の若手研究者を招待しました。

1人目は色彩学の分野から、宇都宮大学・工学部助教の何元元さんにご講演をお願いしました。千葉大学にて博士を取得した際の研究テーマ「肌の色が顔の見えに与える影響の国際比較」についてご講演をして頂きました。

2人目は感性工学の分野から、産業技術総合研究所・人間拡張研究センター特任研究員の谷山祐真さんを招待しました。「何故モナリザは左向きなのか？～顔らしさが左向き選好に及ぼす影響～」と題して、心理学・生理学的手法に基づく研究成果についてご講演をして頂きました。

3人目の講演者は、人工知能を研究している東京大学大学院・工学系研究科特任助教の田和辻可昌さんをお願いをしました。人型エージェントに対する否定的応答である「不気味の谷」現象が生じるメカニズムについて、計算モデルなどを用いて解き明かして頂きました。

4人目の講演者は、やはり異分野である社会心理学の分野から、産業技術総合研究所・人間拡張研究センター研究員の沓澤岳さんにご講演頂きました。絵文字(emoji)は日本発祥のコミュニケーションツールとして、SNSなど様々な場面で活用されていますが、心理学の観点から絵文字がどのように解釈されているのか、研究結果についてご紹介を頂きました。

各講演の後には、活発な質疑応答がなされ、ご講演頂いた4名の若手研究者からは、会場からの有益なフィードバックやご意見に対し、感謝のメッセージと有意義な講演会であったとのお褒めの言葉など頂いております。大変意義深い講演会になりましたこと、謹んで感謝申し上げます。

(坂本 隆・企画調整責任者)

## 優秀発表奨励賞

優秀発表奨励賞は7研究会合同研究発表会の発表において、優秀な発表を表彰するもので、研究発表申込書の提出時にエントリー希望のあった若手研究者から選考します。今回は各研究会から1名ずつ審査委員をお願いし、厳正な審査を行いました。お忙しい中審査にご協力頂いた審査委員の皆様はこの場をお借りして深く御礼申し上げます。審査は採点方式で、あらかじめ審査委員会で決めた手続きに従い行いました。

審査の結果、大阪公立大学大学院 岸本渚氏(講演題目「色彩学の各種理論に基づく配色教材の提案その4:配色カルタとカードの遊び方」)に優秀発表奨励賞を授与することを決定しました。研究会大会の閉会式において優秀発表奨励賞受賞式を行い、共著者である酒井英樹氏に受賞コメントを頂きました。また、受賞者には表彰状が後日郵送で贈られました。

なお、受賞者と次点の方の評価は僅差であり、受賞されなかった方も、質疑応答を参考に今後研究に励んで頂ければと思います。

(土居元紀・優秀発表奨励賞審査委員長)

## 令和6年度研究会大会実行委員会

西 省吾(実行委員長, 測色研究会)

井澤尚子(白色度研究会)

鍵本明里(色覚研究会)

鈴木卓治(画像色彩研究会)

土居元紀(視覚情報基礎研究会)

萩原京子(環境色彩研究会)

羽成隆司(理事会リエゾン)

森友令子(美的感性研究会)

吉澤陽介(色彩教材研究会)

八木橋生輔(学会事務局)



◀ 共催講演会のグループフォト